

事業実施報告

開催日	令和6年5月18日（土）～5月19日（日）		
事業名	テニパークボランティア養成事業		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	37名
対象	青少年教育ボランティア活動に興味関心をもつ高校生、大学生、社会人等		
関係機関名	滝沢消防署・滝沢北出張所		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

[事業の内容]

ボランティア活動に興味・関心をもつ高校生・大学生・社会人が、講義・演習・説明を通してボランティア活動の基本を学ぶことを目的とし、国立青少年教育振興機構のボランティア養成カリキュラムに沿った事業内容で実施した。

「ボランティア活動の意義」「青少年教育」の講師には、東北学院大学情報学部データサイエンス学科の渡邊圭氏を招聘した。事前に法人ボランティアを交えたオンラインミーティングを実施した。

「青少年教育施設の現状と運営」では、社会教育施設としての役割や独立行政法人国立青少年教育振興機構として全国の施設とのつながり等について説明した。

「ボランティア活動の技術」では、野外炊事(カレー)の演習を通して、野外活動を行うための技術・知識を学び、安全管理のポイントを意識させるようにした。

「青少年教育施設におけるボランティア活動」では、法人ボランティア制度の仕組みや当施設のボランティア育成ビジョンについて、また今後ボランティアを募集を予定している事業について説明した。プロパー職員からは、自らのボランティア経験を踏まえ、ボランティア活動について説明した。

「安全管理」では、滝沢消防署・滝沢北出張所の職員2名が救急救命法について講義し、心肺蘇生法の演習をした。

[成果]

事業実施後の参加者アンケートでは、事業全体に関する満足度について、100%の参加者から「満足」「やや満足」の評価を得ることができた。

「救急救命法」では、滝沢消防署・滝沢北出張所の職員2名に来ていただいたことにより、2グループに分かれてAEDを使用した心肺蘇生法を反復練習することができた。参加者からは「自分が救命処置を行わなければならない場に居合わせたとき、積極的に行う必要があることを学んだ」「参加者の安全を第一に考えるうえで有意義な内容であった」との声が寄せられた。

渡邊氏の「青少年教育」では、体験活動の重要性を各種調査結果をもとに講義していただいた。コロナ禍や経済状況・保護者の経験等の社会的背景が青少年の体験活動に与えている影響から、親子での体験活動の重要性について触れ、グループワークで「親子の体験プログラム」を考える活動を行った。参加者からは「自分もコロナ禍で高校生活を過ごし、あまり体験活動をすることができなかった。大学生になった今、自分自身も関わる体験活動を通し社会性や共に生きる力を身に付けるためたくさんボランティア活動をしたい」との声が寄せられた。

法人ボランティアに効果的に参画してもらうため、事業の趣旨説明や野外炊事の実地踏査を事前に行った。班付き活動では積極的にアドバイスをするなど参加者一人一人に寄り添いながら活動を補助する様子が見られた。また、昨年度の自主企画事業の取組紹介や法人ボランティア企画のアイスブレイクを実施したことにより、法人ボランティアとしての活動を知ってもらうことができた。法人ボランティアの事後アンケートにおいても満足度が100%となるなど、今回の事業を通して法人ボランティアの自己有用感を育むことができたと考えられる。

[課題]

申込みの時点で入力してもらったメールアドレスに連絡通知がうまく届かない参加者（盛岡大学社会教育活動実習生）が数名いた。次年度は盛岡大学のポータルサイトも活用することとした。

募集に際し、現在の法人ボランティアのロコミによる広報が効果的であったように感じられた。次年度も法人ボランティアと協力した広報を考えたい。

状況写真



「講義・説明の様子」



「講義・説明の様子」



「野外炊事の様子」



「野外炊事の様子」



「救急救命法の様子」



「救急救命法の様子」